

龍袍—清朝宮廷服の刺繍と織—

「龍袍（りゅうほう）」と称される龍の文様の袍（外衣）は、中国の宮廷の官服として皇帝や皇族の衣装です。裾には宝を散らした人びとの長寿を祈る吉祥文様の寿山福海を描き上部に龍を現しています。宮廷で公式に着られる龍袍は、着用する人の身分や位が一目でわかるように色分けされました。皇帝は明黄（黄色）皇太子は杏黄（琥珀色）、皇子は金黄（オレンジ色）それ以外の人は青色を着ました。

龍袍という名のとおり文様の中心は龍です。龍は世界を治める皇帝のシンボルとして描かれています。胸と背中、両肩に正面向きにそして下方に描かれる海から昇り出た龍が2匹向かい合う姿の8匹の龍が描かれます。高位の人の龍袍には、服の内側にもう1匹の龍が隠れていて全部で9匹います。5本爪から、4本、3本と龍の爪も身分によって描き分けられます。中央の龍は天空を駆ける龍としてその周りには靈芝雲と呼ばれる不老を象徴する瑞雲が配され、その間に幸福のシンボルとされる蝙蝠が飛んでいます。裾には美しい色彩の濃淡の縞で大海原があらわされ、その波間には仏教の伝説に因む八宝が漂っています。このように豊富なシンボルで埋め尽くされた龍袍は、衣服全体が宇宙の完全性と天の力、地上における天の代理人としての皇帝の力を示す象徴に満ちた中国独特の衣装なのです。絹糸の豊かな色彩とその輝き、精緻な刺繍や錦織の中国ならではの高度な技術と美を味わってください。



五爪龍花文朝服 清時代 19C



縹絲吉祥文朝服 清時代 19C



藍地龍吉祥文朝服 清時代 19C



緞地縹絲吉祥文朝服 清時代 19C



五爪龍吉祥文子供朝服 清時代 19C



中国紺地八仙人胴服 清時代 19C



絹地花朝蝶文袍 清時代 19C



明黄地中国夫人袍 19C